



遠宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成 21 年 (2009)

奉祝 天皇陛下御即位二十年・御成婚五十年
平成 21 年 春の大祭号【第 84 号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

今の閉塞感から立ち直ろう……………	2 頁
春の大祭案内……………	3 頁
杜の話題……………	5 頁
大宮の杜 春から夏へ……………	7 頁
どんぐり通信……………	10 頁
初宮詣芳名……………	11 頁
春の大祭社頭風景……………	12 頁



七夕の神遊び 大宮八幡 乞巧潜り神事【七月七日】

今年のご慶事

今年も境内の辛夷の花に合せて妍を競うように彼岸の入りにはやくも咲き始めた桜も、花冷えにより4月の始めまで満花状態が続いております。

天皇皇后両陛下には、今年御成婚五十周年の記念日(4月10日)をお迎えになられます。思い返せば昭和34年4月10日は、私にとつて母校・國學院大学入学式の前日で、その日郷里より上京し叔母の家で御成婚の御儀をテレビで拝見。皇居前広場から常盤松の東宮御所までの御結婚馬車パレードの治道は、喜びとお祝いの人々で溢れている様子が映し出されておりました。翌日その余韻が残る美しく舗装された道路を通つて大(常盤松の東宮御所(現常陸宮邸)の近く)にあり(ます)へ行つた事を覚えております。この時テレビも飛躍的に普及しましたし、このご慶事により日本の戦後経済は高度成長へと発展の途を歩んで参りました。

あれから五十年、今米国発の経済不況の波が日本を被つておりますが、この様な時こそご慶祝申し上げ御聖徳に感謝申し上げます。当宮では4月15日に「両陛下御結婚満五十年奉祝祭」を齋行して御神前にその旨奉告致します。

更に即位の礼が行われた秋11月12日には、御即位二十一年の嘉節をお祝いする国民の奉祝式典が行われます。

常に国民と共に在りとの大御心に依り、国民との深い絆で結ばれ敬愛申し上げます。両陛下の願いは国民の結束であります。国民こそぞつて心から敬慕の念も新たにお祝い申し上げます。

そうして私事を越え、国家国民の平安を常に祈り続けて下さる両陛下を戴くこの素晴らしい国柄の国に生まれて来たことに感謝すると共に、天長地久を言



に感謝すると共に、天長地久を言寿ぎ、国の隆昌と世界の平和をお祈り致し、大御心に応えて参りたいと思つた次第であります。

連続世界一の侍ジャパン

さて閉塞感の漂う暗い世情にあつて先般のWBC(ワールド・ベースボール・クラシック)で我が侍ジャパンの日本チームの活躍は目覚ましく、前回(平成18年)に続き連続して美事優勝に輝き、日本中がはらはらどきどきと大いに湧き返り、選手をしてさわやかで素晴らしい感動と誇りを与えて頂きました。

又試合を重ねる毎に培われてきたチームワークの精神も昂まり、日の丸と国の威信に掛けて戦ふことの大切な意義と共に、日本国中の国民も心からの声援を送る様子は、自然と国を愛する心根を感じとらせて頂き、何よりも大いなる勇氣と感動を与えて頂いた明るいニュースでありました。

今の閉塞感から立ち直ろう

密司 鎌日純彦

あるご老師のことば

先般101歳の禅宗の老僧松原泰道老師(南無の会会長)のお話しが新聞に出ていました。『二〇〇〇年に一度の危機と云われているが、昭和の大恐慌の方が今以上にひどかった。逆境を乗り越えるのではなく、依頼心を捨てて、逆境と心中すること、いちかばちか自分を投げ出してしまつと救いがある』そうして『人間何事にも感動することが一番大事』であると話されているのです。

俳人の松尾芭蕉に、「よく見れば 薺(なずな)花咲く 垣根かな」と云う句があり、ナズナはペンペン草で誰れも見えていなくても、小さな雑草の花が人知れず垣根の隅っこで一生懸命に咲いて

いる姿に芭蕉が感動したことにとても共感されているのです。

更に『今の若い人は仕事をしてもすぐやめてしまふ。辛抱が出来ない。苦境になつても自分自身で何とかするしか解決の方法はない。自分の「マイナスの宿命」を「プラスの宿命」にして、人様のお役に立つことこそ生きがいがある』と、そうしてご高齢なるが故に『毎朝目ざめると、今日も生かされている事を(実感し)感動する。今日も何か役立つことが出来る(思うと)希望が湧いて来る。その希望をどう実現するかは工夫がある』と。老師はこの「感動、希望、工夫」こそ「プラス志向の3K」と呼ばれ、ご自分の「心の杖言葉」とされておられ、『今の闇の様な世の中で真剣に生きたいと思う方なら、この様な「心の杖言葉」即ち自分の心の支えになる言葉をお持ちなさい』とすすめておられます。

さすが「生涯修行 臨終定年」をモットーに今も活躍されているご老師の示唆に富んだ含蓄のあるいいお話であり、感服致した次第であります。この老師のことばにも今日この閉塞感から立ち直るヒントがあり紹介させて頂きました。

又先人達がその時々の困難、苦境に対処し研鑽と努力を重ねて来たように英知を結集して、日本の伝統の心、神佛の御加護を信じ、各々がきちんとした強固な信念(アイデンティティ)と自信をもつて、時には苦境を好機に、発想の転換を図りつつも、その変革に果敢にチャレンジをして行く努力こそ大切であると思つております。

今年も春の大祭(尚武祭)が近づいて参りました。今年も冒頭のご皇室の二つのご慶事を奉祝して齋行されます。このお祭りにお詣り頂き、参加して、そこに息づいている日本の伝統の心にスィッチオン、原点に触れて頂くことによつて、日本人としての豊かな人生感の再発見をして頂き、何か今の閉塞感を克服する事の出来るヒントを感じとつて頂ければ幸甚に存じます。

(平二十一、四、二記)

奉祝 天皇陛下御即位三十年・御成婚五十年
春の大祭(わかば祭り)
 親世流大宮八幡宮の社 新能
 裏千家大宗匠奉仕 献茶式

萌え出する若葉の新緑も色鮮やかな五月、当宮では今年
 の天皇陛下御即位二十年並びに御結婚五十年を奉祝し
 て、5月3日より5日の間春の大祭(わかば祭り)が斎行
 されます。大祭初日の3日は第一日ノ儀(稚児健康祈願祭)につ
 づき第31回の稚児行列が行われます。翌4日午前、第二日ノ儀
 の祭典の後、第9回「若葉inおみや」や第9回「拳武者の集い」
 が催されます。同日午後には植樹祭が行われ、苗木が授与され
 ます。そして5日午前10時よりは春の大祭当日祭(尚武祭)が斎
 行され、皇室国家の安泰・五穀豊穡が祈念されます。



5月3日、こどもの祭(稚児健康祈願祭)に続いて稚児行列が



また昭和の日の4月29日には昭和天皇のご懿徳をお称えて**昭和祭**が斎行されるほか、3～5日の期間中、**大宮八幡植木市**や盆栽展が催され、古武道演武や和太鼓、エイサー踊り等の奉納もあり、境内は多くの参詣者で終日賑わいます。

春の大祭祭典と奉納神賑行事	
昭和祭	4月29日
朔旦祭並びに躑躅育木祭	5月1日
春の大祭第一日ノ儀	5月3日
こどもの祭(稚児健康祈願祭)	5月3日
第31回稚児行列	5月4日
春の大祭第二日ノ儀	5月4日
植樹祭(苗木授与先着二〇〇名)	5月4日
春の大祭当日祭(尚武祭)	5月5日
春の大祭終了奉告祭(直会乃儀)	5月5日
神賑行事	
春の弓道奉納射会	4月29日
古武道奉納演武	5月3日
第9回若葉inおみや	5月4日
第9回拳武者の集い	5月4日
杉並太鼓奉納演奏	5月4日
野点茶会(裏千家)	5月5日
方南エイサー踊り奉納	5月5日
雅太鼓奉納演奏	5月5日
奉納献燈提灯	4月29日～5月25日
園児画展	4月29日～5月25日
みどりの会即売	4月29日～5月25日
スカウトバザー	5月3日
大宮八幡植木市	5月3日～5日
盆栽展示会・即売会	5月3日～5日
露店	5月3日～5日

昭和祭齋行



4月29日(昭和の日)の当日午前10時より昭和祭が厳かに齋行され、昭和天皇のご聖徳をお讃え申し上げます。

大宮八幡植木市



春の大祭期間中の3日〜5日にかけて、表参道では新緑の風物詩「大宮八幡 植木市」が賑々しく開催されます。

若葉inおのみや

4日社殿に於いて春の大祭第二日ノ儀齋行の後、神楽殿前におい

て第9回「若葉inおのみや」としてコンサートが奉納演奏されます。

本年も、青葉萌ゆる大宮八幡宮の杜で、外国人に依る尺八と箏のコンサートライブ(米国出身のカーティス・パターソン氏の箏とブルース・ヒューバナー氏の尺八による共演)を開催。多くの参拝の方々に和の音の世界をお楽しみ頂いております。



苗木授与と献木のお祝い

5月4日(みどりの日)午後2時より、第60回全国植樹祭に因み、当宮みどりの会主催の植樹祭が齋行されます。祭典後、各家庭にも緑を広げる運動の一翼として、植樹祭ご参列の方々先着200名様に苗木が授与されます。また、ご社頭では、鎮守の杜を守り育てようと、皆様方よりの献木のご協賛を承っております。



献木初穂料 一口二、〇〇〇円

※年中を通じて承っております

第六回大宮八幡宮の杜新能

「杉並で能楽を楽しむ会(田木千城夫会長)」の主催により第六回大宮八幡宮の杜新能の奉納公演が、5月16日(土)の夕刻午後6時より境内特設舞台にて開催されます。当日は、先ず能舞台上で、和琴の調べにのり、古式に則る火鑽神事によりご神火が熾され、そのご神火を以って「火入れ式」が行われます。また舞台縁の竹燈にも火が灯され、ライトアップされた新緑の森の幻想的な雰囲気の中、毎年元旦に神能「翁」を奉納されている能楽師野村四郎氏等観世流の演者により、舞囃子「葛城」・狂言「昆布売」・能「殺生石」が演じられます。

なお、入場には陪観券が必要となりますので、お早めにお求め下さい。当宮(社務所)でもお取り次ぎをしております。



第十回裏千家献茶式

5月23日(土)午前10時より第十回裏千家献茶式が茶道裏千家今日庵 鵬雲斎千玄室 大宗匠(先代15代家元)ご奉仕で行われ、濃茶と薄茶が厳かにご神前に献じられます。また併せて、淡交会東京第七東支部の担当主催の奉賛添釜茶会が開かれます。濃茶席・薄茶席・立礼席の三席とも大宗匠が参席され賑々しく催されます。尚、当宮付属の大宮幼稚園では、恒例の幼稚園茶席が開かれ、可愛いお手前が披露されます。



母と子の茶道教室

献茶式での園児茶席でお稽古のご指導を頂いている裏千家淡交会の先生方により、親子で日本の伝統文化の茶の湯に触れようとの企画で、茶室「神泉亭」において毎月(※8月除く)第一・第三水曜日に大宮幼稚園園児を中心に母子の茶道教室(大宮八幡塾)が6月より再開されます。



杜の話題

初春点描

平成21年の年明け。元旦零時、宮司の打ち鳴らす初太鼓を合図に、開門をお待ちの多くの参拝者等は一齐に大前へと進まれました。殿内では神能「翁」の奉奏の後、年頭の特別祈祷、新春厄除開運大祈禱祭（二番祈祷）が宮司奉仕のもと齋行されました。



元旦午前8時には歳旦祭、3日には皇位の始めをことほぐ元始祭が各々齋行され、皇室を中心とする日本の国の隆昌と世界平和併せて国民の皆様の平安が祈られました。又、新春祈祷者を始め参拝者の皆様方には世情を反映してか、このほか真摯なお参りのご様子がかがえしました。

1月15日は小正月の伝統神事、古神矢古神札焼納祭（どんど焼き神事）が行われました。火鑽具により古式に則り熾され



た浄火が古神矢古神札に点火され、神職等が大祓詞を奏上するなか、お焚き上げの火焰は世を覆う暗雲を吹き払うかのように冬空に立ち上りました。



文化財防火デー消防演習

恒例の消防演習が文化財防火デーの1月26日実施されました。当日午前10時、社殿より出火との想定で訓練を開始。境内の施設（各部署）及び消防署への通報、参拝者の避難誘導、消火器による初期消火が行われるなか、杉並消防署の馬橋、堀内小隊など消防車5台が到着。同署と杉並消防団、当宮自衛消防隊による一斉放水が行われました。今度の演習には大宮二丁目防災会の皆さんも参加。また災害時支援ボランティアの方々による応急救護訓練や煙体験コーナーの体験なども実施されました。



新春参宮旅行美濃路へ

新春恒例の伊勢神宮初詣旅行が35名の参加を得て1月27～29日に行われ、美濃路を訪れました。

第1日早朝、まづご神前にて旅の安全と無事を祈願の後、バスにて一路伊勢路へ。途中斎宮歴史博物館を拝観し、外宮御垣内で特別参拝して鳥羽に宿泊。2日目は朝一番に二見興玉神社に詣で、内宮の御垣内参拝と太々神楽の奉納をしました。午後は岐阜の伊奈波神社に参拝後、長良川温泉に宿泊。最終日は犬山市の大縣神社や田縣神社を参拝後、帰途に就きました。

第25回梅・木瓜盆栽展

大宮八幡宮梅の会の主催による、第25回「梅・木瓜盆栽展」を2月3日より4月5日まで開催され、会員の方々が手塩に掛けた梅の盆栽が次々に咲き、続いて木瓜の花も満開となり、馥郁たる香りが境内に漂いました。

J A 葬祭研究会で宮司講演

葬祭奉仕の質的向上を目指す全国JA葬祭研究会の第7回研究会（3月2・3日）が、セシオン杉並で開催され、当宮宮司が特別講演を行いました。此度の研究会は神葬祭についての基本的な知識の習得を目的とし

たもの。同研究会参加のセレモニイ関係者や葬祭場（ホール）経営者、支配人など60名が参加しました。

宮司は3日午前9時半より午前中、「神葬祭のしきたり」と題し講演。まづ日本民族の祖霊祭祀について触れ、神葬祭は「人の祖霊化のステップとして通らねばならぬ関門」として神葬祭を行う意義と根拠を説明。浄化され祖霊となる御霊はその家や郷土に留まり子孫を見守り、祖先・自分・子孫の間には永遠の血と心（魂）の連続性があると、日本人古来の靈魂観を述べ、こうした観念に立脚しての神葬祭に伴う諸祭儀や祖霊祭祀の意義付けを行いました。

第四方面安協 交通安全祈願

警視庁第四方面区内交通安全協会連絡協議会の交通安全祈願祭が去る3月12日夕刻斎行され、警視庁交通部長等が参列されました。

四方面連絡協議会は新宿、中野、杉並の三区九署の交通安全協会で構成。祈願祭には警視庁交通部長坂口正芳警視監を始め安協第四方面本部長、赤根高井戸警察署長等警視庁幹部、また寺嶋高井戸交通安全協会会長ら各安協会長の90名が参列、祝詞奏上に続き玉串を奉って交通事故撲滅を祈念され、続いて清涼殿で会合が開催されました。

大宮八幡の杜 春から夏へ

水無月夏越の大祓

大祓とは、私たちが日々の生活の中で知らず知らず犯した罪や穢を祓い清めて、また半年を清々しく送るための神事です。

6月晦日の30日午後4時より行われる夏越の大祓では、神職が大祓詞を宣読した後



人形に各々の心身の穢れを移し、更には故事に倣い、茅を束ねた茅の輪を『水無月の夏越の祓ひする人は千歳の命延ぶといふなり』と唱えつつ、無病息災を祈り、左廻り・右廻り、左廻りと三回くぐります。

この際お預かり致しました人形は、ご神火によりお焚き上げをして、その灰を川に流して祓い清めます。また、ご参列の皆様には茅の輪守り・福笹・玉串団子が授与されます。



大祓 茅の輪守り

大祓ご参加のご案内

毎年6月1日より社頭にて人形(形代)が頒布されます。これは皆様の身代わりとして眼に見えない罪や穢を形代に移して祓いを受け清めるものです。この人形で全身を撫で息を三度吹きかけ、罪穢を移してからお納めになり、夏越の大祓にご参加下さい。車形もあります。(※祭典日前でもお納め頂けます。)



大祓詞書写会

当宮の教化活動の一環として、りんどう会と共催の大祓詞書写会(大宮八幡塾)を、夏越の大祓に併せて、今年も6月20日(土)より28日(日)までの9日間開催致します。

形代流し旅行のご案内

夏越の大祓にて氏子崇敬者の皆様よりお納め頂きました形代(焼納して灰にしたもの)を湖川に流す神事「形代流し」を兼ね7月26日・27日と実施致します。

今回は、信州路安曇野と戸隠への一泊二日の旅で、二十年に一度

字)を奉納することにより大神様の御神徳を戴こうというもの。浄書された大祓詞は、大祓に引き続き行われる奉納奉告祈願祭に神前に納められます。

平安の雅第10回乞巧奠飾りと大宮八幡乞巧潜り神事

当宮では、7月1日より15日まで清涼殿ロビーにて平安の七夕第10回「乞巧奠飾り」を再現。

笹竹で四隅を囲い梶の葉や七夕人形・短冊などを下げ、詩歌・管弦・書などの上達を祈って筆硯、雅楽器、五色の糸や布などが供えられます。



期間中、神門前には梶の葉や五色の布を垂らした「大宮八幡乞巧潜り」が設けられ、左・右・左との遷宮の行われる穂高神社と七年に一度の式年大祭に当たる戸隠神社に参拝し、名物戸隠そばのそば打ち体験をして、松本にある美ヶ原温泉に宿泊します。

皆様お誘い合わせの上、多数にご参加下さいますようご案内申し上げます。(詳細は社務所へとお問い合わせください)



三度潜ること、で技芸の上達を祈ります。併せて大笹竹も立てられ、ご参拝の皆様のご願いを込めた短冊をご自由に結んで頂きます。

また、日曜日の6日と13日午後5時より乞巧奠飾り前にて「雅楽の夕べ」(雅楽と神楽舞)が、当宮職員らにより奉奏されます。さらに7月7日の七夕の夕刻には『七夕の神遊び・技芸上達祈願祭』が、乞巧奠と共に、技芸の上達を祈り齋行され、御社殿での祭典のあと参列員等と共に乞巧潜り神事を行います。

「乞巧守り」を奉製

平成の七夕祭りに因み学業や技芸の上達を祈願して特別奉製の「乞巧守り」が授与されます。これは、笹竹に梶の葉と紅白の七夕人形が付けられた御守りで7月1日(朔旦祭)より、天神祭りの7月25日までの期間限定の特別祈願お守りです。



納涼大宮天神祭り 「時間を外した日の祭事」



恒例の夏の風物詩「第9回納涼大宮天神祭り」が今年も天神様のご縁日7月25日に当宮境内社の大宮天満宮に於いて行われます。毎年

崇敬者の方々及び大宮幼稚園々児・近隣の小学生の皆様よりご奉納を頂いた多数の書画行燈に、夕刻より灯りが入れられ幻想的な雰囲気の中、学業成就を祈願する「大宮天神祭」の祭典が午後5時半より斎行されます。

祭典に続き、午後6時半より、「杜のひびきinおみや」（時間をはずした日の祭事）として太鼓集団「巴伶」代表響道寡氏等による奉納演奏が行われ、夕闇に轟き巨る和太鼓の音の世界をご陪観の方々にも感応頂いておられます。続いて「子供のミニ花火の集い」も催され、大人からお子様まで納涼を兼ねお楽しみ頂けます。多くのご参詣をお待ち致しております。



書画行燈の募集

納涼大宮天神祭りに当たり「書・画」の作品が募集されています。書や画は、行燈に貼って灯を点し7月25日の夕刻より大宮天神祭に献灯して、ご社殿前に掲出されます。

水彩画又は書を指定の用紙に必ず横長に使用して、ご奉納（応募）頂いてます。
（※用紙は社務所にあります。[無料]）



多摩清水社例祭（水神祭）



水の大切な盛夏の時期、水神様の御神徳を称え、生命の源である水の恵みに改めて感謝を捧げる多摩清水社例祭が、水の日（8月1日、朔旦）に続き斎行されます。どなたでもご自由にご参列頂けますので、日頃何気なく使っている水の恵みに感謝致しましょう。

第26回戦没者慰霊祭

終戦記念日の8月15日、第26回大宮八幡宮戦没者慰霊祭が斎行されます。正午の全国戦没者追悼式に合わせて一分間の黙祷を捧げ、当宮氏子地域より出征された御英霊等の御霊をお招きし、追悼と感謝の誠を捧げて慰霊し、日本国の隆昌と世界の恒久平和を祈念致します。



りんどう会活動

当宮敬神婦人会（りんどう会）では、4月12日清涼殿に於いて第3回の敬神婦人会総会が開催され、大宮八幡宮の歴史を学ぼうと、「和田大宮の研究」著者元杉並区史編纂委員萩原弘道先生を講師に研究会も併せて行われました。また、同会では随時会員募集をされておりますので、ご入会希望の方はお気軽に事務局（社務所総務課）へお申し出下さい。



春の大祭後の主な行事

- 御嶽榛名神社例祭 5月16日
- 第30回大宮さつき展 5月下旬〜6月上旬
- 大祓詞書写会 6月21日〜29日
- 夏越の大祓・茅の輪くぐり 6月30日
- 第10回乞巧奠飾り 7月1日〜15日
- 乞巧潜り神事 7月6日・13日
- 七夕の神遊び（我雲上達祈願祭） 7月7日
- 第9回納涼大宮天神祭り書画行燈掲出 7月25日
- 第9回杜のひびきinおみや（和太鼓演奏） 7月25日
- 多摩清水社例祭（水神祭） 8月1日
- 第26回戦没者慰霊祭 8月15日

大宮八幡祭り（秋の大祭） 祭典日程のお知らせ

- 本年度の大宮八幡祭り（秋の大祭）は左記の日程により斎行されます。
- ※例大祭は9月15日（火）に斎行する
- ※神輿神霊入・若宮八幡神社並白幡宮例祭は9月18日（金）に斎行する
- ※宵宮祭は9月19日（土）に斎行する
- ※氏子奉幣祭（奉祝当日祭）・神輿合同宮入は9月20日（日）に斎行する
- ※神輿神霊返は9月21日（祝）に斎行する

大宮八幡花だより

春のお祭りの5月上旬、神楽殿前の「なんじやもんじや(ひとつばたご)」が白い清楚な花を咲かせます。この名称は、木の名前が判らず「何の木じゃ?」との問いに「もじやもんじや」と

答えられなかったことからついたとされています。満開時には、まるで雪を被ったかの様にも見えます。

翌6月中旬旬頃、社殿前の菩提樹が、薄山吹色の花を咲かせ、境内に仄かな香りを漂わせませます。また散った花により、辺り一面薄山吹色の絨毯を敷き詰めた様になります。

平成15年にご奉納頂いてより早6年。根も拡がり今では3鉢に増えた大賀蓮。例年7月下旬頃より



数日間だけ花を咲かせ、早朝にお参りの方々をお迎えします。屋頃には、一旦蕾を閉じ、又翌朝元氣良く咲きます。

第30回大宮さつき展

杉並大宮さつきの会主催による「杉並大宮さつき展」が来る5月下旬より6月上旬までの間、当宮神門内北翼廊で催されます。

昭和55年5月に第1回目のさつき展が開催されてより、今年で30周年を迎えます。特に、21回目の平成12年度より杉並区の後援を頂き、まさに区民のさつき展として開催されています。例年、氏子崇敬者の会

員により多くのさつきが出品され、丹精の込められた作品が五月晴れの中、妍を競いご参拝の方々の目を楽しませております。



大宮八幡宮みどりの会会員募集

当宮を中心とした善福寺川流域は、杉並区の緑の重点地区になっていきます。当宮みどりの会は、周辺地域の緑化に寄与し、緑の発信基地として緑化運動の一翼を担いたいと同頂き、共にご活動頂ける会員を随時募集しております。

尚、梅の会・さつきの会・菊の会も当会に所属しています。詳しくは、事務局(当宮社務所内)へお尋ね下さい。

大宮菊の会 菊作り講習会

初心者からベテランの方まで、毎回大勢の人が参加される、杉並大宮菊の会主催による菊作り講習会が、今年も全5回にわたり当宮境内菩提樹下に開催されます。

昨年の第30回杉並大宮菊花展(杉並区後援)には、各方面より沢山のご出品を頂き、三百数十鉢を超える盛大な菊花展となりました。今年も菊花展への出品を目標に、是非多くの愛好家の方にご受講頂き、美しい菊花を育て上げて頂きたく存じます。

○菊作り講習会日程(雨天決行)

- ・5月24日13:00
- ・6月21日13:00
- ・7月5日13:00
- ・10月4日13:00



毎月1日 朔旦祭 (どなたでもご自由に毎月15日 月次祭 (ご参列出来ます。))

毎月・お朔日参りを

致しましょう

戌の日詣りは

子育八幡さまの当宮で

安産祈願のご祈禱を!

ご祈願方には安産腹帯宮日帯を授与しております。子授け祈願・初宮詣も随時お受けしております。

戌の日早見表

(平成21年5月~平成21年9月)

9月2日(水)	8月9日(日)	7月4日(土)	6月10日(水)	5月5日(祝)
14日(月)	21日(金)	16日(木)	22日(月)	17日(日)
26日(土)		28日(火)		29日(金)

大宮八幡宮が育成母体

BS・GSスカウト募集

ボーイスカウト 杉並13團

ガールスカウト 東京62團

スカウト 募集中

小学一年生から小学生まで入団できます。

お問い合わせは、当宮社務所へ

初宮詣芳名

(平成 20 年 11 月 24 日 ~ 平成 20 年 3 月 23 日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

- | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 荒木日葵 | 松添映乃 | 遠山直輝 | 尾田陽音 | 森菜乃伽 | 近藤悠生 | 秋元奈緒 | 伊藤壮佑 |
| 中浜香真 | 舟見里音 | 神保太一 | 石井杏奈 | 浅岡美音 | 鮎川大輔 | 和氣義忠 | 石毛奈子 |
| 藤木俊介 | 佐藤陽斗 | 田丸權 | 山本悠太 | 林愛母 | 石川愛理 | 遠藤由依子 | 山本龍佳 |
| 黒川慶 | 薄木陽 | 清水結衣 | 長沢柊 | 星野由奈 | 桂木花望 | 徳武宏祐 | 中村柚莉愛 |
| チエン彰栄 | 佐々木楓 | 鈴木暖乃風 | 伊藤雄介 | 高木玲衣 | 柘植光榮 | 田畑慶悟 | 安藤梨花 |
| 櫻井裕女 | 森近隆弘 | 依田郁子 | 石川舜 | 井上心結 | 徳永宏介 | 立石喜大 | 中田優成 |
| 渡辺璃空 | 雨宮陽菜 | 斉藤夢歩 | 畑山立輝 | 幣若菜 | 森下蒼山 | 山口怜愛 | 元田咲 |
| 工藤里音 | レビン愛美 | 平沢美遥 | 堀場悠一郎 | 石丸麻里香 | 秋澤穂波 | 栗原陽 | 野口月祈夜 |
| 中村多ツナ | 有働美菜子 | 小林祐 | 三枝大翔 | 酒巻亮佑 | 森田翔一朗 | 渡部歩風 | 吉川羅風 |
| 君島龍之介 | 小崎太聖 | 宮崎麗羽 | 加藤瑠菜 | 酒井駿 | 徳重智也 | 青山夕珠 | 内田麻結 |
| 古田結真 | 太田絢芽 | 星川幸奈 | 中村凜音 | 坪田倅香 | 尾花駿 | 柄本おおい | 岡本樹 |
| 岩渕大智 | 内ヶ崎奏和 | 西村一樹 | 鈴木梨史 | 丹羽創也 | 安藤幸輝 | 広瀬小梅 | 小林功人 |
| 東田依知香 | 近藤悠太 | 三輪兵衛 | 藤井雄大 | 岡田紗弥 | 秋山心 | 浅見悠里子 | 植松温人 |
| 村長青空 | 居鶴壮一郎 | 千年史也 | 玉井健晴 | 有山唯良 | 篠崎芽唯 | 高橋美蕾 | 高橋瞭太 |
| 金子大河 | 市村那織 | 穂津優人 | 二之形奈穂 | 森川雄貴 | 高木菜帆 | 堀真陽 | 福永芽唯 |
| 水野嘉紀 | 澤井穂乃 | 善行太一 | 矢部虎翼 | 田村哲大 | 山口航平 | 野牧花梨 | 山田望也美 |
| 藤澤佳実 | 宮澤綾音 | 阿久津祐 | 館島蒼 | 脇田紗羽 | 野尻智也 | 陳竜太郎 | 大塚泰記 |
| 清水恭弥 | 山内茜音 | 白木健悟 | 島津舞仁 | 山口寛太 | 天野聖菜 | 山家遠真 | 桑原琉斗 |
| 岩見愛紗 | 谷真里奈 | 小島菜桜子 | 平野雄斗 | 西川乃伊 | 稲垣透悟 | 山田百葉 | 石井栄統 |
| 興雅晶 | 杉本沙季 | 原田ゆうみ | 橋立海 | 富井駿介 | 雨宮千亜 | 木場田 | 竹島英真 |
| 祖山愛笑 | 難波美日子 | 門田望叶 | 山田堂高 | 安藤慶 | 手塚望琴 | マツクミ悠亮 | 田中友梨奈 |
| 窪田彩音 | 新免領太郎 | 薄井節 | 池谷華音 | 松井新 | 佐々木律歌 | 戸咲希 | 東山周太郎 |
| 早崎恵万 | 芹澤希美 | 吉江優太 | 笠井悠雲 | 佐藤珂音 | 川合蓮斗 | 鈴木和子 | 佐藤圭悟 |
| 鳥居琴音 | 芹澤美咲 | 東暖巳 | 杏掛優生 | 青山紗季 | 山口健伸 | 橋本湊太 | 木所奏奈 |
| 高橋虎起 | 内藤愛 | 櫻井聖天 | 大西諤 | 大河原爽介 | 飯田結音 | 東海林実依 | 山本凜美 |
| 町田凜 | 宮澤電生 | 和田大樹 | 田中康誠 | 松村莉空 | 石山晴輝 | 加藤慶倅 | 徳山遼介 |
| 鎌形碧哉 | 齋藤琢道 | 岡ノ谷芽依 | 鈴木陽菜子 | 青木芽生 | 脇本啓太 | 三浦綾乃 | 牧野穂乃香 |
| 野瀬響 | 岩湖雅賢 | 小林愛和弥 | 新田ゆな | 高橋日和 | 戸頃礼夢 | 佐野志帆 | 河本雄大 |
| 久保田晴子 | 有永智美 | 荒井香乃 | 上谷葵 | 神谷麻菜美 | 三浦未暖 | 田崎美羽 | 永澤隼 |
| | | | | 木下夢来 | 高橋未和 | 久保田莉仁 | 柳悠世 |
| | | | | 伊藤佳代 | 田村翔希 | 石川乃彩 | 福井来実 |
| | | | | 榎本賢真 | 齋藤梨奈 | 長谷部葵衣 | 菅沼慧 |
| | | | | 寺川友紀乃 | 高山寛司 | 小坂結羽 | 大藏ゆき |



大宮幼稚園卒園式

去る3月19日、第59回大宮幼稚園卒園式を無事終え、園児ら101名が元気に巣立っていきました。

大宮幼稚園の卒園式は、卒園証書を一人づつ園長先生から頂き、沢山の歌を歌う為長時間になりました。そこでどうしたら、きちんとした姿勢で臨んでもらえるかを考え、卒園式の意味や大切さを子供たちに話しました。「先生、こう座ったらいいの?」「この歌は元気に歌うんだね!」「頑張るよ」と、子供たちなりに理解してくれた様で、全員が心を一つにして式に臨みました。

当日、先立って社殿で行われた奉告祭ではおしゃべりはもちろん体を動かすこともなく、式に於いては一人一人が今までの思い出を胸に卒園証書を受け取り、お友達が受け取った時は拍手でお祝いし、歌やお別れの言葉ではピアノの伴奏や周りのお友達に合わせようと頑張っていました。そんな子供たちの姿を見て、この園で学び大きく成長したことを嬉しく思い、感動した式となりました。

これからも遊ぶ時は思いっきり、きちんとする時はきちんと、人の話は真剣に聞く、ということが出来る大宮っ子でいて欲しいと思います。そしていつまでも大宮の神様と私たちは、みんなを応援していることを忘れないで下さい。みんなで過ごした三年間とても楽しかったです。

教諭 奥村佳代子



年中組音楽会

年中組の締めくくりとも云える行事、音楽会。この日を迎えるまでに沢山の練習を重ねてきました。

始めは、子供たちに楽器を紹介し、それらを部屋に置いて、子供たちが自由に触られる様にしました。今まで触ったこともない楽器ばかりで、子供たちは友達同士で顔を

うさぎ倶楽部



就園前の満一歳位からのお子様を対象に、保護者の方と一緒に当園の園庭で遊ぶ「うさぎ倶楽部」を開催しております。開催日は5月よりスタートで月一回行われます。詳細は幼稚園へお問い合わせ下さい。

- 伊藤由真 佐々木翔 御子柴朋香 高木稜馬
- 黒田悠斗 飯田雄成 味戸優真 服部菜弥
- 松本都羽沙 永峯暁 杉山通人 近藤庵
- 田中袖衣 伊藤静香 北口凜久 河井継丸
- 野呂航世 田塚陽菜 越智晴弥 坂本暖真
- 牧野桃果 齋木一志 金城璃飛 岡本結希乃
- 鈴木愛未 村上雄飛 山本琉維 奥富柚
- 東遼平 内藤祐樹 大木尊陽 大久保至
- 牧野美玖 羽鳥楓雅 神宮和 古澤亜麻果
- 和嶋加奈 橋本菜 時田旭 井上絵里奈
- 関谷諒太 岩崎梨花 松浦史歩 村田芽衣
- 岩田奏 白井小通 井上龍 加藤雄大
- 土肥小織 川辺洗希 吉原由真 安部颯太郎
- 満重佑真 人見美緒 和栗勇人 武井和己
- 濱田育美 島田陸玖 柴田咲希 山内悠輔
- 西崎小春 植村凜子 谷口麦 久保紅奈
- 佐藤礼 藤澤康太 福田結大 船渡川望美
- 武内優 大塚悠衣 内藤雪鈴 加藤百花
- 南部陽月 伊勢漣介 吉田和真 安田唯乃
- 前田愛衣 高比良樹一 正野佑 小川剛志
- 小川内璃梨 松本すず 渡邊結希菜 桂川華歩
- 中倉日菜 田中美音 岩井初音花 吉田紗奈
- 曾根みいか 市川乃彩 千葉隼人 高守芳奈
- 小林そら 矢端万里子 林琉乃乃 館島聖人
- 丸山比呂 柴山大輝 坂井真緒 山本有久里
- 麦倉僚介 石川孝哉 田中達樹 岡本玲美
- 畑友華 北川大地 山口春果 金子瑛美
- 梶岡凜華 櫻井楓 塚田芽生 望月亮吾
- 森田恵菜 株本悠杜 谷川翔梧 神田々々葉
- 金井優芽 笠原芽依 田近友菜 佐川弥智
- 小川愛奈 牛田響 南陽太 中澤七彩
- 清水莉穂 雨宮更優 岡田留旺 竹内彰良
- 大野湊音 林晃輝 青木琉太 中井戸梨紗
- 中山陸 川鍋佑斗 石川璃来 松本アラン

- 齊慧二郎 藤井彩乃 新井颯 篠塚柊吾
- 北條史奈 山崎華朝 樋口莉緒 森井萌加
- 岩谷桜田 附田風雅 片岡悠真 田代脩人
- 渡邊村豊 野島沙良 渡辺琴葉 多々良真結子
- 松井詩波 齋藤穂果 大坪千紗 大森湊太
- 遠藤光陽 長岡沙季 今駒輝乃 渡辺美博
- 黒木梓 大塚萌々 勝間田夏希 國見裕子
- 三井寧々 木下璃来 村井祐太 竹内愛純
- 榎本準也 藤田優 馬淵拓弥 山本啓史
- 両田日和 川崎菜乃花 若杉歩武 村上絃亮
- 清水雄太 伊丹暖翔 福田佳菜子 三上玲奈
- 岡野伊万里 浅見一輝 松尾華子 吉田光莉
- 大橋光 真下華 石井大翔 内匠悠
- 岸本涼 伊澤杏珠 堀本透子 樋田奏
- 岩田友李 原寿成 宇田川美穂 新井航汰
- 松島和泉 吉田佳凜那 石岡美結 和田煌大
- 江部優梨 田村心篤 岡水開馳 近藤希音
- 田村優盛 清水悠希 辻本慎一郎 山田結愛
- 志村拓海 奥村那奈 建守玲
- 遠藤叶馬 加藤愛菜 大渡晴馬
- 蕪山結莉亜 岡本瑠奈 大島京子
- 天田和杏 小北美奈 中村有沙
- 本間弥莉矢 藤本花和 菅田れいら
- 古田翔梧 大島和菜 モリ身
- 結城咲良 佐藤友希 シヤレット
- 澤田慧吾 池田有沙 田中新
- 吉田周史 田中敬 天津心芳
- 松田航 竹内笑香 岡本美海

初宮詣芳名 お詫びと訂正
 先号の社報第83号の初宮詣芳名中、
 荒木日葵様のお名前に誤記がございました。
 謹んでお詫び申し上げ訂正し再度掲載
 させて頂きます。



見合わせて音を出してしました。そこで先生たちで合奏をしてみせると、「すごい！私もやってみたいよ」と瞳を輝かせていました。

曲を決めて練習開始。曲毎に分かれ、歌を歌いながら練習をしていきませんが、最初の頃は、皆で合わせると言うよりも、自分の好きに音を出しているだけでしたが、先生が合図を出し、それに合わせて楽器を鳴らす練習を重ねるにつれ、徐々に自分のパートやリズムを覚え、ピアノの音を聞きながら楽器を鳴らせる様になってきました。

音楽会当日、106名の子供たちは興奮と緊張が入り交じった様子でしたが、5チームとも各々今まで練習してきたことをよく思い出し、精一杯頑張ることが出来ました。部屋に戻って「ドキドキしたけど楽しかった」と笑顔で話していました。この日、沢山の人の前で、堂々と合奏を発表出来た子供たちを見て、心も体も大きく成長したことを実感しました。今回の行事を通して、心を一つにして皆で力を合わせる楽しさ・大切さを知り、そして年長組へと進級する子供たちをみて嬉しく思います。

教諭 池添百合子



緑豊かな都心の杜。 正統派神前式

初宮詣 衣装・美容着付・写真・初宮饗膳(ご会食)など承ります。

初宮集會 清涼殿 03(3312)7515

結婚式挙式者芳名(敬称略)

(平成二十年十二月二十二日)
 平成二十一年三月三十日

橋本晃久・聖弓 岡村将・小百合
 小林則行・千花 石田和作・陽子
 大橋基文・佐登子 岩間徹・愛
 野澤春樹・景子 植野公友・容子
 北郷尚久・晃子 上山孝司・美由紀
 石島寛之・希保

奉祝 天皇陛下御即位20年・御成婚50年

春の大祭(わかば祭り)5月3日~5日

春の大祭 当日祭(尚武祭)〔5日〕



宮司以下祭員・参列員、社殿に参進



海幸山幸の神饌に続き、奉茶の儀



宮司、ご神前に祝詞を奏上



園児の神楽「朝日子舞」奉奏



神楽「浦安舞」を奉奏



責任役員、玉串を奉りて拝礼

春の大祭 第一日ノ儀 **こどもの祭(稚児健康祈願祭)**〔3日〕
稚児行列には、鼓笛隊・スカウト・猿田彦・役員総代・こども太鼓山車など多くの供奉が



古武道奉納演武〔3日〕



挙式者の集い〔4日〕



裏千家野点茶会〔5日〕

大 宮 第84号
平成21年 春の大祭号
平成21年5月1日発行
大宮八幡宮社務所

〒168-8570
東京都杉並区大宮2-3-1
電話 (3311)0105 FAX(3318)6100
Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp



方南エイサー踊り〔5日〕



雅太鼓奉納演奏〔5日〕

境内では、連日神賑行事が奉納されています〔3日~5日〕